

国指定史跡 唐沢山城跡を探索しよう

1頁▶4頁

【概要】

県立自然公園となっている唐沢山周辺は大規模な山城で、唐沢山城跡と呼ばれています。戦国時代に佐野氏が居城し、交通要衝の地にあるため、戦国時代には本城をめぐって何回も戦いがありました。そのため、攻撃に備えるいろいろな工夫がされてきました。平らに削平された曲輪。土を盛り上げた土塁。堅牢な高石垣、侵入を防ぐ堀。これらは現在、唐澤山神社本殿がある本丸を中心に広がっています。

お薦めルート

総延長 約2.5km 移動時間 約50分（見学時間は除く）

消費カロリー

男性：215kcal 女性：166kcal



お問合せ

観光案内 ● 佐野市観光立市推進課 ☎(0283) 27-3011 ● 唐澤山神社 ☎(0283) 24-1138
史跡案内 ● 佐野市文化財課 ☎(0283) 61-1177

① くい違い虎口



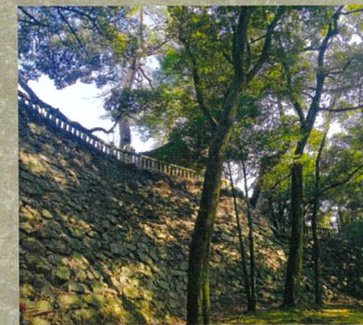
くい違い形とする記録もあります。北の避来矢山、南の天狗岩の間にある防備を固めた出入口です。土塁をくい違いにして直線的に進入できないようにするなどの工夫がされています。東側は、ます形になります。

④ 四つ目堀



西城方面と帯曲輪以東を分断する大きな堀切で、古地図に堀口5間、深さ2間とあります。現在神橋が架かっていますが、かつては曳橋であったとされています。いざという時に橋を引き払い、通行を遮断することができました。

⑦ 高石垣



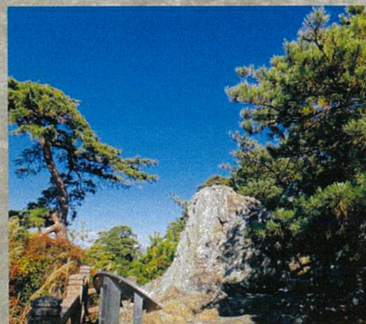
本丸南西の石垣は約40m延び、南局の西側に続きます。高さ8mを超える石垣は、小田原合戦以降、佐野氏が豊臣秀吉と深い関係にあったため、西日本を中心とする技術の導入によって築かれたものと判断されます。関東では極めて珍しい貴重なものです。

⑩ 三の丸



現在は帯曲輪と二の丸の間を三の丸としています。本城では大きな曲輪です。かつては賓客の応接間があったとされます。周囲は高く急な切岸が巡りますが、部分的な石垣等が複数個所で認められます。

② 天狗岩



「大陰山」と例えられる岩山ですが、山頂から南方や東方への視界は良好です。眺望の良さを活かし、周囲を見張る役割を果たしたものと考えられます。かつては物見櫓があったとも、大筒が掛けられていたともされます。

⑤ 大手道



当時における最終段階の大手の道筋が残されています。くい違い虎口から続く神社の参道を進み、南城の手前（西側）で二の丸方面に折れて坂道を上るルートです。そして、二の丸から本丸へ向かいます。

⑧ 二の丸



追手出丸と記述する古地図もあります。周囲には石垣のような石垣が巡ります。奥御殿直番の詰所があったとされています。現在本丸への通路は直線的にアプローチしていますが、かつては鉤の手に折れていたようです。

⑪ 帯曲輪



古地図や古記録では三の丸を含めて帯曲輪としていますが、現在は細長い平坦地を指しています。高く急な切岸と土塁を有していますが、四つ目堀を隔てた本丸側における最前線の防御拠点であったと考えられます。

③ 大炊の井



避来矢山と西城の間にある口径9m、深さ8m以上の大きな井戸です。築城に際して巖島大明神に祈請したとされています。山上における水の確保は重要ですが、現在まで涸れることなく豊かな水を蓄えています。

⑥ 南城



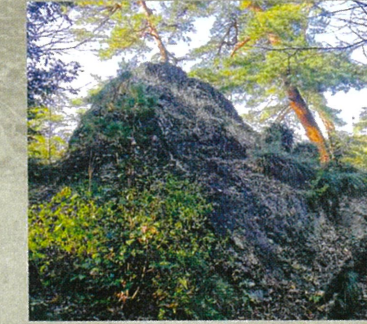
蔵屋敷、武者詰等ともいい、現在は社務所や南城館があります。周囲に石垣が巡りますが、特に南東の石垣は見応えがあります。眺望も良く、天候に恵まれたときには富士山や東京スカイツリーを望むことができます。

⑨ 本丸



現在、藤原秀郷公を祀った唐澤山神社がありますが、かつては奥御殿があったとされます。大手となる出入口は西側で、堀め手口は北東になります。周囲に石垣のような石垣が巡ります。本丸の南西下に高さ8mを超える見事な高石垣がたたずみます。

⑫ 鏡岩



レストハウス西側下方、古記録に長さ7間とある、そそり立つような岩盤を指します。現在は県道がこの付近を真直ぐ通っていますが、昭和30年代まで岩脈が直進をさえぎっていました。かつてこの付近は木戸を有して鉤の手になる重要な出入口でした。

※体重が男性：65kg、女性：50kgの人が速歩き（81m/分）の強度を参考に算出
参考：健康づくりのための運動指針2006（厚生労働省）

